

IV 市民調査結果

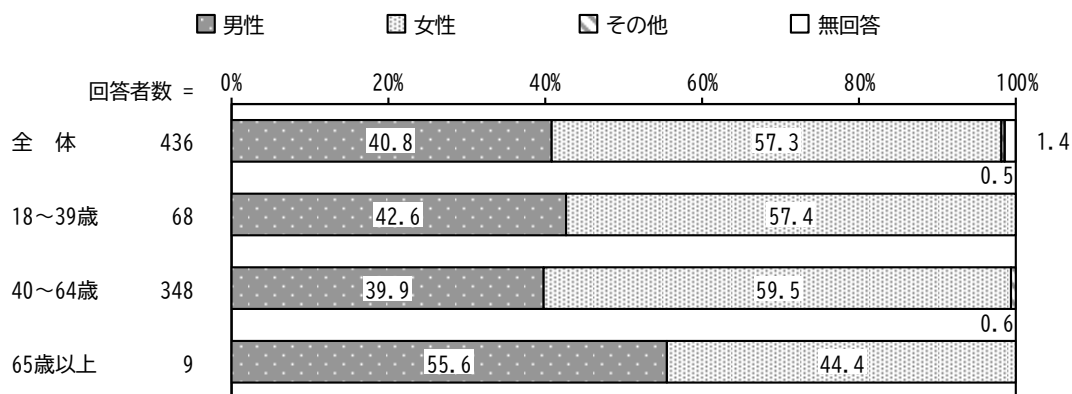
あなたご自身について

問1 あなたの性別は、次のうちどれですか。(○印は1つ)

「男性」の割合が40.8%、「女性」の割合が57.3%となっています。

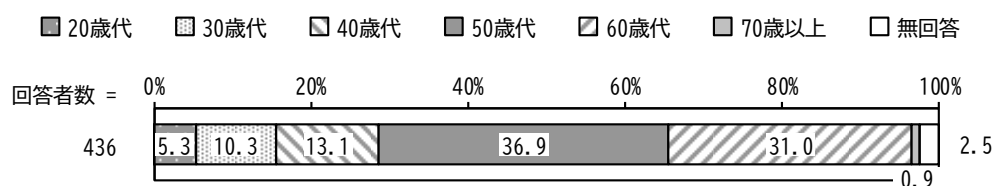
【年齢別】

年齢別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。



問2 あなたの年齢（令和8年4月1日現在）をお答えください。(数字を記入)

「50 歳代」の割合が36.9%と最も高く、次いで「60 歳代」の割合が31.0%、「40 歳代」の割合が13.1%となっています。

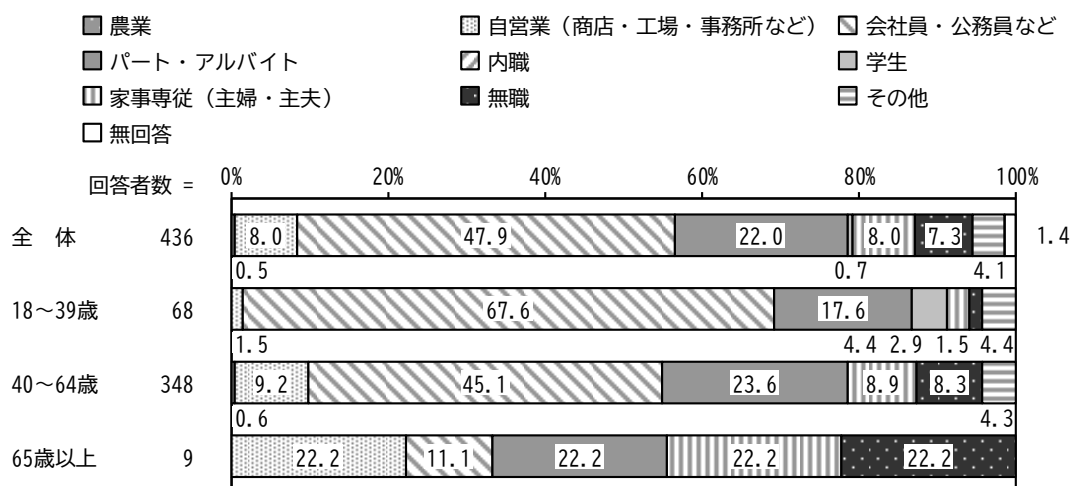


問3 あなたの職業についてお答えください。(○印は1つ)

「会社員・公務員など」の割合が47.9%と最も高く、次いで「パート・アルバイト」の割合が22.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「自営業（商店・工場・事務所など）」「家事専従（主婦・主夫）」「無職」の割合が高く、「会社員・公務員など」の割合が低くなっています。

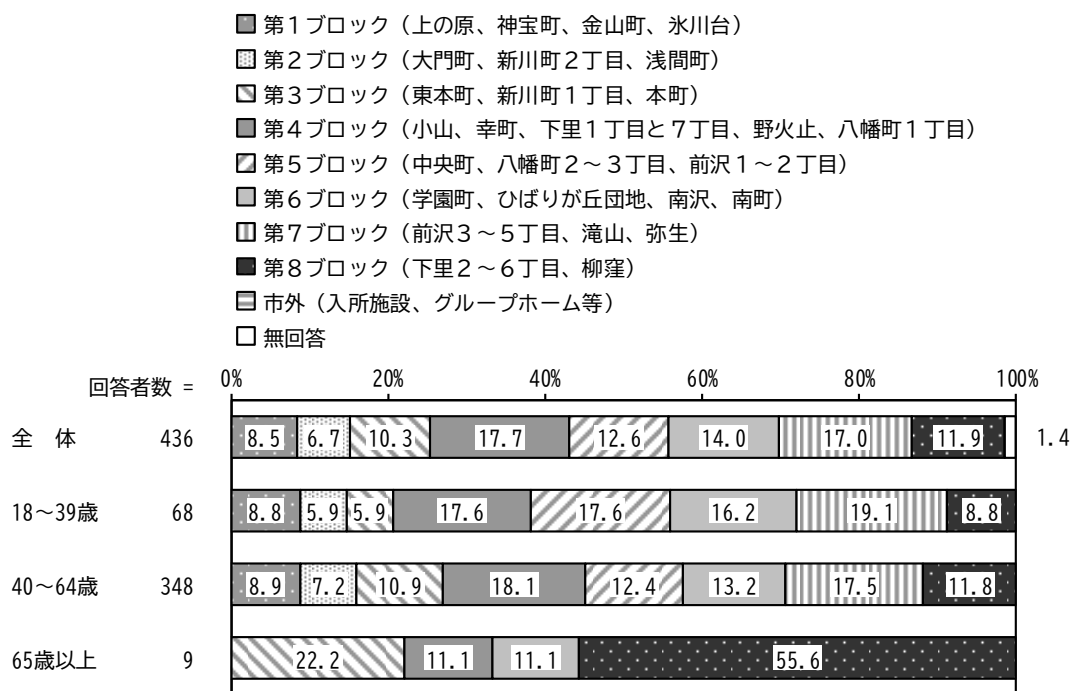


問4 あなたのお住まいをお聞きます。(○印は1つ)

「第4ブロック（小山、幸町、下里1丁目と7丁目、野火止、八幡町1丁目）」の割合が17.7%と最も高く、次いで「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が17.0%、「第6ブロック（学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町）」の割合が14.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「第5ブロック（中央町、八幡町2～3丁目、前沢1～2丁目）」「第6ブロック（学園町、ひばりが丘団地、南沢、南町）」「第7ブロック（前沢3～5丁目、滝山、弥生）」の割合が高く、「第3ブロック（東本町、新川町1丁目、本町）」「第8ブロック（下里2～6丁目、柳窪）」の割合が低くなっています。



問5 あなたは、誰と一緒に生活していますか。(あてはまるものすべてに○印)

「配偶者（妻・夫）」の割合が56.2%と最も高く、次いで「子ども」の割合が33.0%、「母」の割合が23.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「父」「母」「祖父母」「兄弟・姉妹」の割合が高く、「子ども」の割合が低くなっています。また、40歳～64歳で「配偶者（妻・夫）」の割合が高くなっています。

単位：％

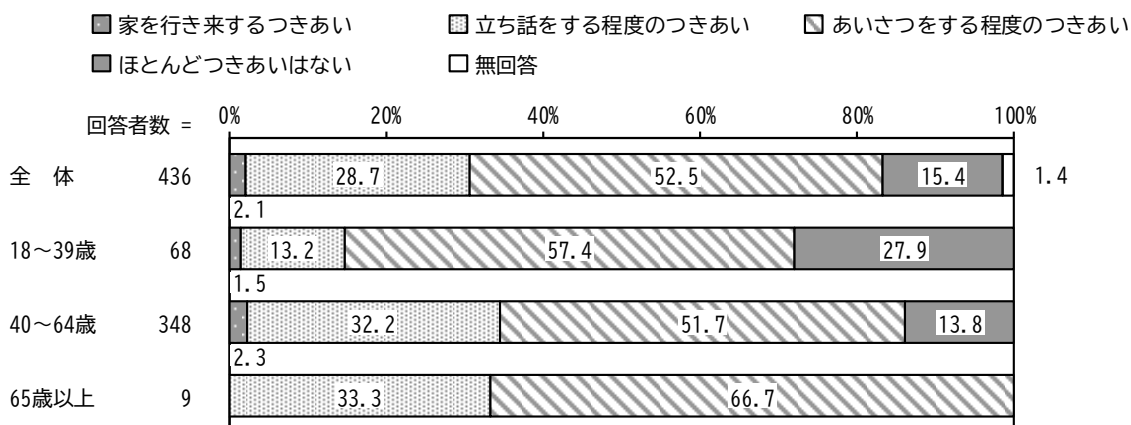
区分	回答者数 (件)	配偶者 (妻・夫)	子ども	子どもの 配偶者	父	母	祖父母	兄弟・ 姉妹	その他の親 族	友人など家 族以外 の人	寮や施設 の職員・仲 間	ひとり暮らし	その他	無回答
全 体	436	56.2	33.0	0.9	14.0	23.4	2.8	7.8	0.9	0.9	0.0	13.8	1.4	1.6
18～39歳	68	22.1	19.1	0.0	52.9	58.8	10.3	27.9	1.5	2.9	0.0	10.3	2.9	1.5
40～64歳	348	64.1	35.3	1.1	7.2	17.0	1.4	4.0	0.9	0.6	0.0	15.2	1.1	0.0
65歳以上	9	44.4	77.8	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問6 あなたは、普段近所の方とどの程度おつきあいをしていますか。(○印は1つ)

「あいさつをする程度のつきあい」の割合が52.5%と最も高く、次いで「立ち話をする程度のつきあい」の割合が28.7%、「ほとんどつきあいはない」の割合が15.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「立ち話をする程度のつきあい」の割合が高く、「ほとんどつきあいはない」の割合が低くなっています。

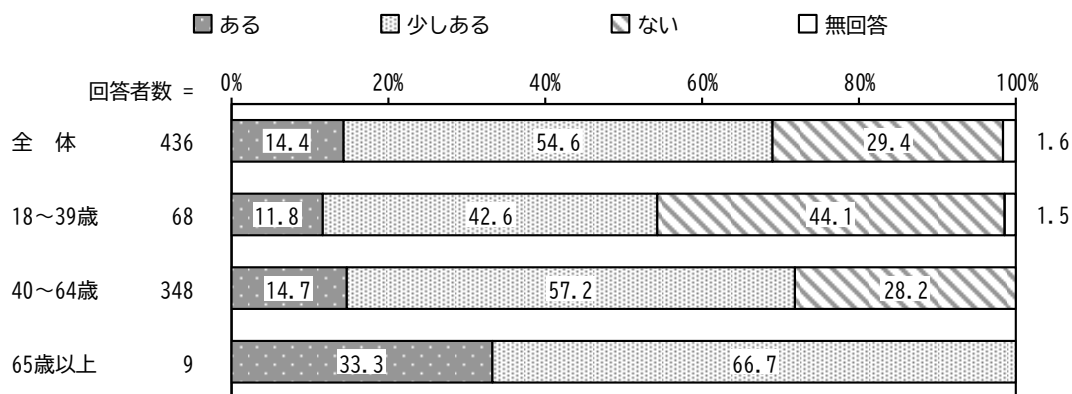


問7 あなたは、障害福祉に関心がありますか。(○印は1つ)

「ある」の割合が 14.4%、「少しある」の割合が 54.6%、「ない」の割合が 29.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「ある」「少しある」の割合が高く、「ない」の割合が低くなっています。



問8 あなたの身近に障害や難病等のある方がいますか。(あてはまるものすべてに○印)

「自分自身がそうである」の割合が 2.1%、「身近な方がそうである」の割合が 28.0%、「いない」の割合が 69.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、10 件以上の項目で大きな差はみられません。

単位：％

区分	回答者数 (件)	自分自身が そうである	身近な方が そうである	いない	無回答
全 体	436	2.1	28.0	69.0	2.1
18～39歳	68	2.9	26.5	73.5	0.0
40～64歳	348	2.0	28.4	69.5	0.9
65歳以上	9	0.0	22.2	77.8	0.0

問9 あなたは、障害や難病等のある方と交流がありますか。(あてはまるものすべてに○印)

「交流する機会がほとんどない」の割合が 58.5%と最も高く、次いで「家族等身近な親族にいる」の割合が 20.4%、「学校や職場の同僚として交流がある」の割合が 11.2%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「家族等身近な親族にいる」の割合が高く、「学校や職場の同僚として交流がある」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	家族等 身近な 親族に いる	学校や 職場の 同僚と して交 流があ る	知人・ 友人と して交 流があ る	地域行 事など の活動 で交流 がある	ボラン ティア 活動で 交流が ある	交流す る機会 がほと んどな い	その他	無回 答
全 体	436	20.4	11.2	7.8	0.9	0.7	58.5	7.3	1.8
18～39歳	68	13.2	13.2	7.4	1.5	0.0	66.2	10.3	0.0
40～64歳	348	21.6	11.2	7.8	0.9	0.9	58.6	6.9	0.6
65歳以上	9	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	66.7	11.1	0.0

障害への理解について

問10 普段の生活の中で、困っている障害者（児）に対し「あなたができる支援」は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「乗り物で席を譲る」の割合が 92.2%と最も高く、次いで「階段の昇降や道路の横断、電車・バス乗降に手を貸す」の割合が 61.9%、「車椅子を押したり持ち上げるのを手伝う」の割合が 43.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「様子を見に行ったり、声かけをする」「車椅子を押したり持ち上げるのを手伝う」「災害や急病などの緊急時の通報」「手話や筆談で話す」の割合が高く、「階段の昇降や道路の横断、電車・バス乗降に手を貸す」「車で送迎するなど、外出の手助けをする」「買い物を代わりにする」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	乗り物で席を譲る	階段の昇降や道路の横断、電車・バス乗降に手を貸す	様子を見に行ったり、声かけをする	荷物を持つ	車椅子を押したり持ち上げるのを手伝う	災害や急病などの緊急時の通報	安否確認の声かけ
全 体	436	92.2	61.9	26.4	39.0	43.6	26.6	21.3
18～39歳	68	91.2	58.8	29.4	36.8	44.1	32.4	25.0
40～64歳	348	92.5	62.9	25.9	39.1	43.1	25.6	20.4
65歳以上	9	77.8	66.7	11.1	33.3	33.3	22.2	22.2

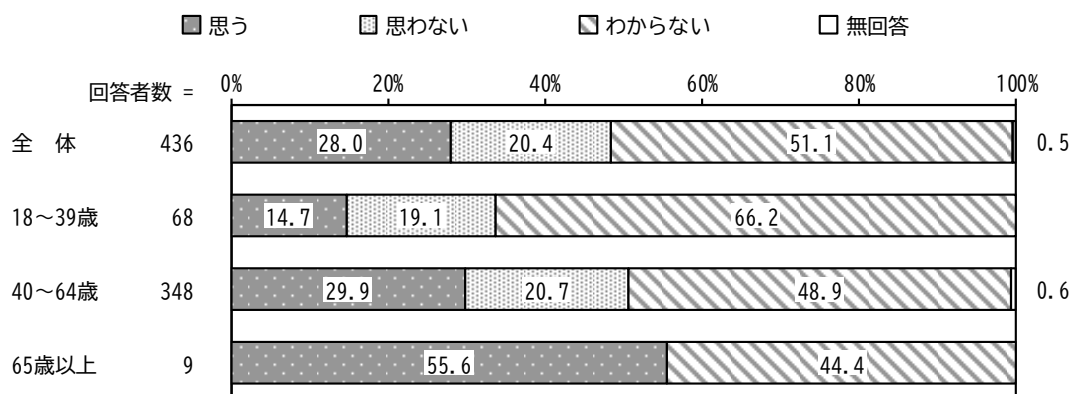
区分	訪問したり話し相手になる	手話や筆談で話す	車で送迎するなど、外出の手助けをする	食事を作ったり、掃除や洗濯を手伝う	買い物を代わりにする	特にできることがない	その他	無回答
全 体	6.7	7.6	5.7	4.8	8.7	4.4	1.1	0.2
18～39歳	4.4	10.3	4.4	2.9	5.9	7.4	0.0	0.0
40～64歳	6.9	6.9	5.7	5.2	8.9	3.4	1.4	0.3
65歳以上	0.0	0.0	11.1	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0

問 11 お住まいの地域及び職場で、障害者（児）への理解が10年前に比べて深まっていると思いますか。（○印は1つ）

「思う」の割合が28.0%、「思わない」の割合が20.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「思う」の割合が高くなっています。



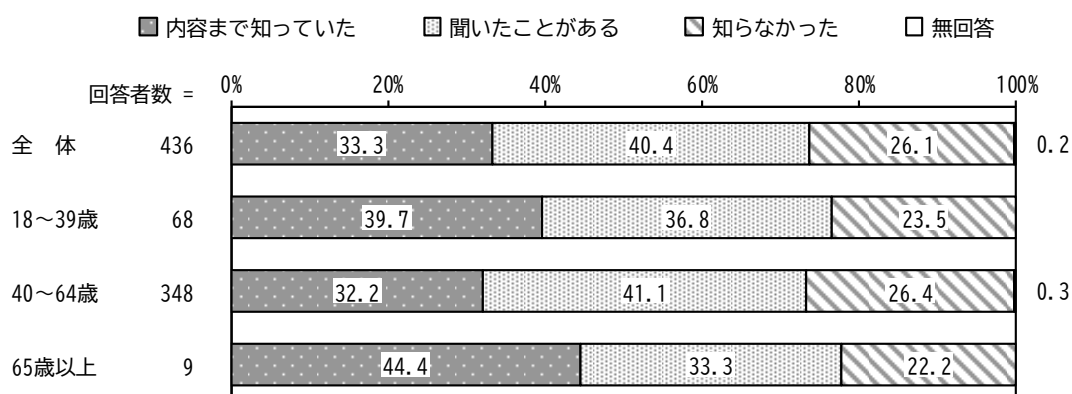
問 12 あなたは、ヘルプカード、ヘルプマークを知っていますか。（それぞれに○印は1つ）

『②ヘルプマーク』で「内容まで知っていた」が、『①ヘルプカード』で「知らなかった」が高くなっています。

①ヘルプカード

【年齢別】

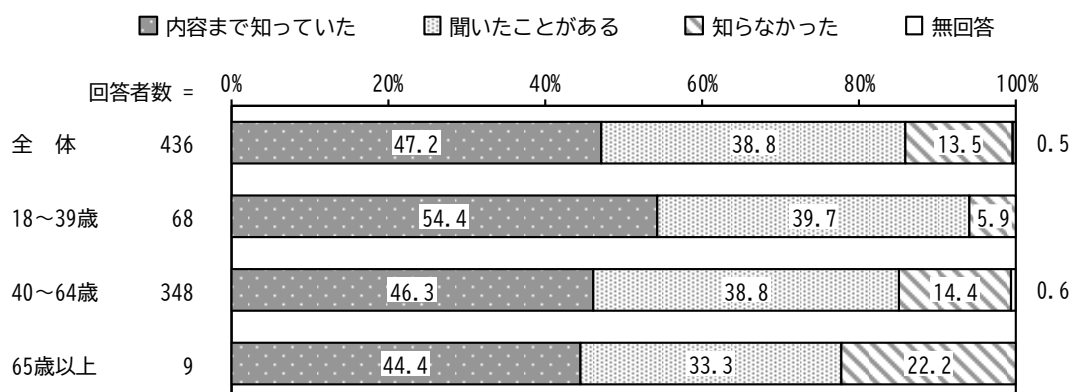
年齢別にみると、18～39歳で「内容まで知っていた」の割合が高くなっています。



②ヘルプマーク

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「内容まで知っていた」「聞いたことがある」の割合が高く、「知らなかった」の割合が低くなっています。

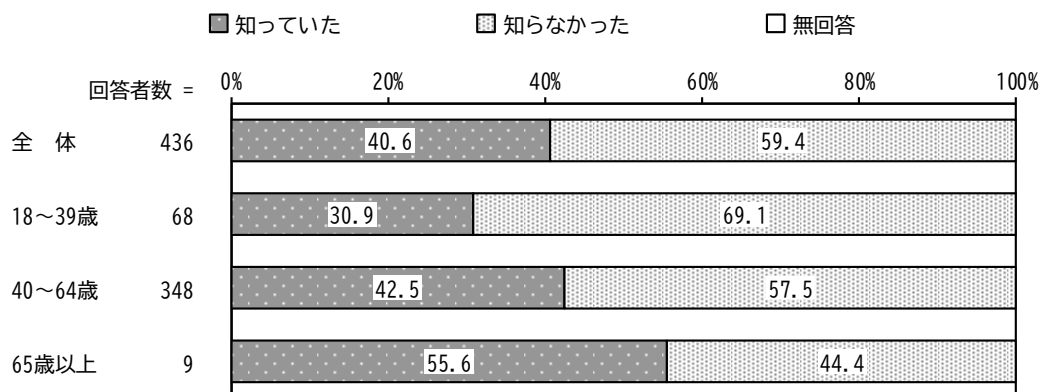


問 13 「障害者虐待防止法」により、家庭、職場及び障害者施設において障害者（児）の虐待を発見した市民には、通報義務があることを知っていましたか。（○印は1つ）

「知っていた」の割合が 40.6%、「知らなかった」の割合が 59.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていた」の割合が高くなっています。

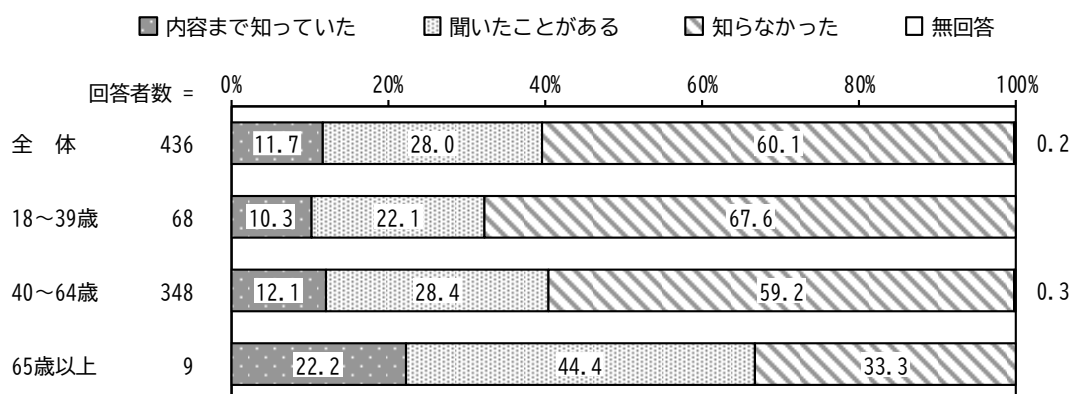


問 14 あなたは、「障害者差別解消法」について知っていましたか。(○印は1つ)

「内容まで知っていた」の割合が 11.7%、「聞いたことがある」の割合が 28.0%、「知らなかった」の割合が 60.1%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「内容まで知っていた」「聞いたことがある」の割合が高く、「知らなかった」の割合が低くなっています。

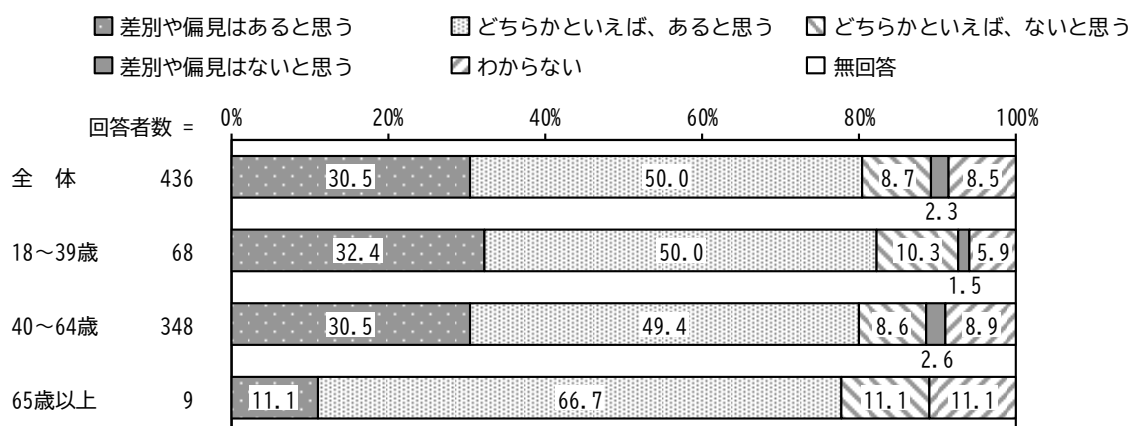


問 15 現在の社会には、障害のある人に対する差別や偏見があると思いますか。(○印は1つ)

「どちらかといえば、あると思う」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「差別や偏見はあると思う」の割合が 30.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「差別や偏見はあると思う」の割合が高くなっています。



問 15 で「差別や偏見はあると思う」「どちらかといえば、あると思う」を選んだ方におたずねします。

問 15－1 障害者（児）に対する差別・偏見、または理解のなさはどのようなところにあると思いますか。具体的な内容もご記入ください。（あてはまるものすべてに○印）

「仕事」の割合が 62.1%と最も高く、次いで「建物の構造」の割合が 48.7%、「収入」の割合が 42.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「お店等の店員の対応や態度」「行政の対応」の割合が高く、「教育の機会」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事	建物の構造	地域の方の 接し方 や態度	収入	交通機関	教育の機会	お店等の店員の 対応や態度	行政の対応	応 保育所や学校の対	その他	無回答
全 体	351	62.1	48.7	33.3	42.5	32.2	22.5	22.2	15.4	16.5	4.0	3.1
18～39歳	56	62.5	46.4	32.1	44.6	26.8	16.1	33.9	19.6	14.3	10.7	1.8
40～64歳	278	62.2	50.4	31.7	41.4	33.5	23.0	20.1	14.4	17.3	2.9	3.6
65歳以上	7	71.4	42.9	71.4	71.4	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0

問 15－1 障害者（児）に対する差別・偏見、または理解のなさはどうなのところにある
 と思いますか。具体的な内容もご記入ください。

全体で 94 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	ハード面(バリアフリー・道路の整備等)	25 件
2	職場	21 件
3	差別的な接し方	12 件
4	理解	11 件
5	学校・教育・子供	8 件
6	接し方・状況がわからない	5 件
7	駅や電車・バス	5 件
8	外出先	2 件
9	その他	5 件

ハード面(バリアフリー・道路の整備等)

バリアフリーではないところも多い
全てがバリアフリーでは無いと思う
車椅子利用の際に出入口の幅が狭すぎス場合がある。又、方向転換のためのスペース不足。ゆとりあるスペースが必要
バリアフリーのところが少ない
エレベーターのない建物
段差が多かったり、その段差を埋めるようなスロープ（簡易なものでも）にできるような板の準備がない、など
車いすで行動できない所がある
古い建造物は昔のままで段差が多い
EV の設置が少ない
道も含め、段差が多い。点字ブロックも壊れている所が多い
段差が多い
古い建物は、おいついていないよね
バリアフリー、エスカレーターエレベーターなどの施設利用の優先度
歩道の整備がされてなく、車イスなどの通行がむずかしい場所が多い
バリアフリーも不十分
バリアフリーと言っても、まだまだ段差がある場所がある
道路や公共の建物でも一部まだ対応できていない所は多い
道路の段差（バリアフリー）
病院でのマイナンバーカードでの顔認証が車椅子の人にはできない高さになっている
お店や学校が全てバリアフリーというわけではない。そのため限られた場所しか使用できない

お店で、棚の高い所に商品があると、「取りましょうか？」と声がけしたいが、余計なお世話かなと思ってしまう
未だ、バリアフリーが整った建物が多いとは言えない
歩道がガタガタ、狭い、段差がある
バリアフリーの考え方、段差がなければバリアフリーだと思っている(HP にかいてある)店、人が多いが、車イスで入れるトイレ、移動するのに十分な広さがある通路、のりおりしやすい駐車スペースなど全てそろってバリアフリーだと思う
バリアフリーも増えてきていますが場所によっては階段しかなかったり

職場

障害者の工賃が低い。A型事業所の不正。法定雇用率を守らない企業がある
障害者雇用をしている職種が少ないように感じます
求職活動、採用において障害のある方ない方では大きな差が出てくると考える
低賃金で働いてもらえると思ってる人がいる
障害の有る方を採用する企業は少ないと思う
一般企業等に就職できている人は、ある程度の収入が得られているかも知れないが、就労支援施設に従事している人などは単身、自力生活するだけの収入は得られていないように感じる
障害を持った方の働き場所はまだまだ少いのでは
重度の障害者は就業の機会が限られている
働く機会や選択肢に制約が生じやすい
自分の収入だけで生活できるような仕事に就くことが難しい
仕事の機会が限られている
会社に採用されても仕事と呼べるような内容の業務を任せられず、本人は勤労意欲を失い退職を招く結果になりやすい。障害者雇用とは名ばかりの企業が多いと感じている
経済的にフルタイムで働きたいが、障がいのためむずかしく、希望する時間で働く場がない、断られたと当事者の兄から聞いた
障害者採用で就職した者は人数カウントされないためかある程度仕事ができても低収入（実際に知っている人）
そもそも、賃金の差がある
仕事も限られる為、収入も不十分だと思われる
収入面では健常者との差はある
収入においても厳しい状況であると感じます
体の障害によりつけない仕事がある。がこれは差別ではなく区別であるのでしかたがないと思う
健常に比べて収入がとても低いなと感じてしまう
就業出来ても賃金格差があるように思う

差別的な接し方

見てみないふりする人の多さ。嫌だという態度など
身体障害は分かりやすいが、内部疾患による障害がある方は、理解を得づらく、差別や偏見につながると思います
見た目には障害者とわかりづらい人には差別的な態度で接する方が多くいると思う（人より動作が遅かったりなど）
所詮他人、かわかりたくない。見て見ぬふり、ちょっとこわい・・・的な目で見える社会
接客業についており、同僚等から誤解されている場面を感じることもある。お客さんとして気に入って来て頂いているのに、何もしていないのに、嫌われてしまっているなど
態度（めんどくさそう）
障害者を見る目が違うように見えた
あまり関わらないようにしてしまう空気感があると感じる
あまり立ち入ってはいけないのかなとかかわらないようにしているかも
障害のある方がいても、身体的な方はお手伝いしますが精神的な方は攻撃的な方がいるので見て見ぬふりをしてしまう
障害者に対する他者の視線も、良いものとは決して言えない
ヘルプマークを持っていたても、無関心の人がいる

理解

精神障がい者への理解は進んでいない
誰もが自分の生活が忙しく他人への関心をする余裕がない
かわかる機会自体が少ないので、“理解する”ということがそもそも難しいと感じる
障害を正しく理解し、どういった助けが必要か知る機会があまりなく、よく分からない部分が多いと思います
障害への理解不足から勝手な主観が先行していて出来るだけ関わらない方を選ぶ人がどこにいても多いと感じます
知識不足による偏った印象
身体と精神の違い
障害者と健常者が交流することが、そもそも少なく、どう接するのが良いか学ぶ機会がない
うつなどの気分障害への理解が難しいのかなと思う（ネガティブなイメージが強いので、風邪のように気軽に病院に行っていいんだとか、家族や本人が気軽に相談ができる場所があればよいと思う）
人それぞれ考え方がちがうので接し方や態度を強制することが難しいと思う
手や足などにみえる障害（先天性や事故で ex. 片方なかったりなど）は、周囲からもフォローが必要など見て、分かることだけど、発達障害 ADHD・ASD などは、みためではふつうの人と同じだから、理解されにくい現実はあると思う

学校・教育・子供

小学生の段階から別学となっていることから、小さいころから、身近にいない存在となるため
施設対応等にした方がよいケースもある
特に子供時代に接することがあれば大人になっても、理解が得られるのではないか
子供の時からの対応や話し合い等する
学校等で特別支援を受ける申請が煩雑で時間がかかる
どうしても、ADHD と分かっていたとしても保育現場などでは、手がかかってあたりまえなのに、周りの環境でそのようにフォローが必要であることが見えにくくなってしまふことがある
教育でも対応出来ず、同じ環境で学べない
教育に関しては支援級や支援学校など増えるといいなと思う

接し方・状況がわからない

障害のある人への、接し方がわからない人が多いのだと思う
障害とひとくくりにできない。行動や発声が奇をてらうように思えるところもあり、対処法がわからないことにおそれを感じてしまうところかと思う
差別しているというよりは無関心な人が多いと思う。どのように接したらいいのかわからない
どのように対応していいのかわからない為、ご本人に接する時に困っている
差別か区別かわかりませんが、条件がちがうことはあると思う

駅や電車・バス

バスや電車で若い方はスマホをみていてお年寄りや障害の方が乗ってきても気がつかない
バスの乗り降り。歩道との距離が中途半端で車道に降りてから乗り降りするか大股で歩道から乗り降りしないとだめ。運転手は見ているのに一向に対策されないのは、差別、偏見、理解されていないと同じ。
車イスでの移動が困難である（建物も交通機関も）
車イスの方がバスなどを利用する時など、運転士の方が1人で対応するのは難しそう
電車の優先席にどっかり座って眠る。障がい者に席を譲る意志が全くない

外出先

盲導犬を拒絶する店がある事
障害を理由に、あきらめざるを得ない、行きたい所に行けないことがある

その他

昔に比べれば差別、偏見は解消されつつあるが、人的問題や費用面でコストがかかるため表面的な対応画一的な対応になってしまい、当事者（障害者・児）は不利益を被ることがある
この項目が当てはまるとかではなく、なんとなく肌感でそのようなものを感じる。なんとなくという理由です
無意識的な感じ
無意識的なレベルで何かしらあると思います
なんとなく感じる

問 16 あなたは、障害のある方もない方も共に住み慣れた地域で生活できるように地域の理解を進めていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印は3つまで)

「学校でのインクルーシブ教育や障害に関する教育の推進」の割合が 56.2%と最も高く、次いで「障害者の一般企業への就労の促進」の割合が 36.2%、「地域行事への障害者（児）の参加を促進するなど、地域住民等との交流の場を増やす」の割合が 34.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「障害についての正しい知識の普及啓発のための講演会等の開催」「障害者作品展や障害者（児）と交流するイベントの開催」の割合が高く、「地域行事への障害者（児）の参加を促進するなど、地域住民等との交流の場を増やす」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	地域行事への障害者 (児)の参加を促進す るなど、地域住民等と の交流の場を増やす	学校でのインクルー シブ教育や障害に関 する教育の推進	障害についての正し い知識の普及啓発の ための講演会等の開 催	障害者作品展や障害 者(児)と交流するイ ベントの開催
全 体	436	34.4	56.2	28.2	15.6
18～39歳	68	23.5	58.8	32.4	19.1
40～64歳	348	35.1	56.3	27.6	15.2
65歳以上	9	88.9	55.6	22.2	11.1

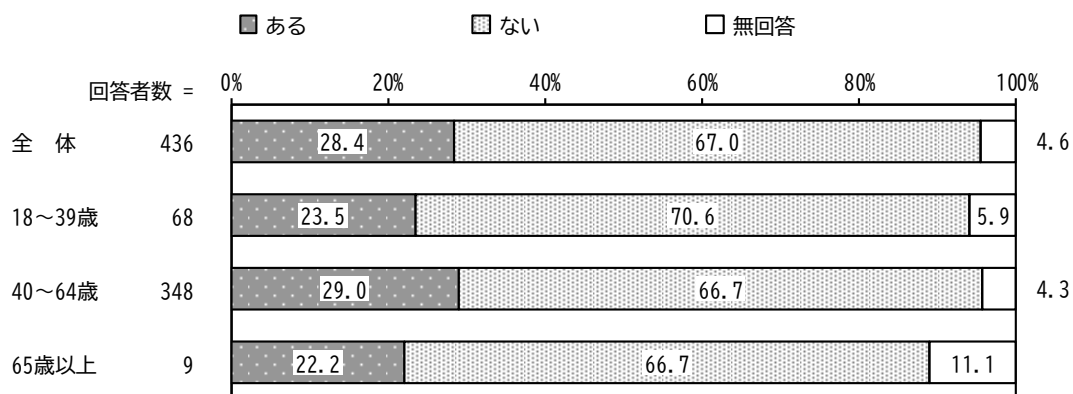
区分	障害者(児)の生活や 障害についての正し い知識等を伝えるリ フレットの発行	障害者の一般企業へ の就労の促進	特にな い	そ の 他	無 回 答
全 体	22.7	36.2	5.0	2.5	3.4
18～39歳	23.5	33.8	2.9	1.5	2.9
40～64歳	23.3	37.4	5.2	2.9	3.2
65歳以上	22.2	22.2	0.0	0.0	11.1

問 17 あなたは、障害のある方の介助（支援）をしたことがありますか。（○印は1つ）「ある」と回答した方は、支援した内容を枠内にご記入ください。

「ある」の割合が 28.4%、「ない」の割合が 67.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、40～64 歳で「ある」の割合が高くなっています。



問 17 あなたは、障害のある方の介助（支援）をしたことがありますか。（○印は1つ）「ある」と回答した方は、支援した内容を枠内にご記入ください。

全体で 77 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	車いすの介助	19 件
2	仕事・実習で	15 件
3	目が見えない方	12 件
4	生活全般	11 件
5	家族の介助	6 件
6	外出移動支援	3 件
7	声掛け	3 件
8	譲る(電車内で座席を譲る等)	2 件
9	電車やエレベーターの乗り降り	2 件
10	ボランティア	1 件
11	その他手助け	1 件
12	その他	2 件

車いすの介助

患者様の介助 歯科医院の為、待合室に上がる時の車椅子の際の介助、診療室に入る時の介助
車イスを押してあげたり、移動を手助けした
車いすを押す、歩行補助
声かけや車イスのお手伝い等
車イスの移動に困った方の介助
車椅子が道路の段差にひっかかり持ち上げた事があります
車イスの介助 周りの目が気になることがある スペースや段差など移動に困ることがある。多目的トイレがなくとても困ることが多い
車イスを押してあげた事がある（同内容ほか 1 件）
車いすを押した（坂になっているところで）
車いすの方の歩行の出助け（同内容ほか 1 件）
車いすの方の段差を超える手伝い
車いすの介助（同内容ほか 2 件）
車いす移乗や移動の介助
段差のない坂を通る車いすの方が居たので声かけをしてお手伝いした。歩道に自転車が真中に置いてあって車いすの方が通れないので自転車を動かした
車イスを利用している方の乗り物の降りる時の手伝い・車イスを利用している方が荷物を落としたり、くつがぬげてしまったりした時に手伝い

仕事・実習で

身体に障害のある方、精神に障害のある方それぞれお互い理解を深めながら協力し合いながら一緒に仕事（事務系）をした事がある
障害児施設に 27 年間勤務していました
仕事が保育園のため、実際に障害を持った子ども達と接してきている。その家族ともかかわっている
一般就労のお手伝い
障害者施設にて支援スタッフとして就労していた。主に衣・食・住の介助、外出支援など
医療機関に勤めているのでほぼ毎日関わっています
児童助員の経験あり。学校生活での個々に対応した支援
仕事で
保育園（職場）で年長児の担任をした時に、就学に向けて、小学校への連絡会での引き継ぎ、や保護者へ就学支援シートの記入を進めることや、市の発達子育て支援に相談できる所があることを伝え、進める
知的障害のある生徒を教育する仕事をしている
仕事の相談
仕事で児童発達支援の児童指導員をしています
仕事が介護支援
仕事内ですが、精神疾患の方や、高齢者の方への介助
同じ職場で働いていた時、作業中は見守り声をかけない（見守る）

目が見えない方

目の不自由な方への道案内・誘導
目の不自由な方に声をかけ、共に歩いた
視覚障害のある方に「そちら行き止まりです」というような声が
コンビニで働いているので目の見えないお客様の買い物のお手伝い
目の不自由な方へ・駅ホームで乗る位置を声かけ(ホーム先まで行きそうだったので)
駅（ホームドアの無い駅）のホームで視力に問題のある方（白いつえ利用者）の立ち位置の修正
目の不自由な方を道案内し連れて行く
視覚障害の方の介助
視覚障害者の外出援助
目の見えない方の誘導
駅へ向う途中、白杖の方へ声をかけ、サポートが必要か確認してから手を貸して改札口まで案内した。本人が周囲に助けを求めているが誰も手を貸さず素通りする状況だった
目の不自由な方の乗り物への案内や手伝いなど

生活全般

仕事で障害者の方（児童）の支援をしている。車イスの子のトイレ介助や外出で一緒に散歩をしたり、または仕事で関わる人が多いので療育面が多い
生活の手伝い
病院へのつきそい
生活支援をしている
日常生活の補助、家事、送迎
通院同行し医師に症状を伝える。書類の代筆
父(故人)の食事時の補助、ベットから車椅子への移動、車椅子補助など(脳梗塞による右半身不随)
ストマ交換
車イス移動、入浴介助、外出介助
食事を買って自宅まで運んだりしました
自立障害者の居宅で、食事、排せつ介護、車いすでの外出援助

家族の介助

父の介助
母の介護
弟が自閉症（重度）である為、介護経験は幼い頃からあります
兄が障害者だったので生活の一部で父母が介助していたのをお手伝いしてました
家族に障害者がいるので
親が難病の為、介護をしている(他市で生活している為通い)

外出移動支援

通学、通勤のサポート
視覚障害者の移動支援
毎週日曜日、キリスト教会へ視覚障害者の送迎をしている

声掛け

バスの降りるところがわからなくなっていた人に声をかけて目的の施設に連絡して向かえにきてもらった
バスに乗る時前の方が目の見えない方だったので乗車の際に声かけをした
信号が無い横断歩道で、白い杖の人が居たので、「大丈夫です。渡れます」と声かけをした

譲る(電車内で座席を譲る等)

電車内で盲導犬をつれた人が乗車してきた際、席を譲った
席をゆずった

電車やエレベーターの乗り降り

目の不自由な方へ電車乗車時声かけ誘導

ボランティア

キリスト教会(市外)で発達障害児の放課後支援をしている

その他手助け

銀行の ATM で耳の不自由な方のトラブルに筆談で内容を確認、ATM の Tel で銀行へ連絡した

その他

ホームヘルパー資格取得研修時

筆談で会話

問 18 災害時、身近な方や地域に向けて「あなたができる支援」は何ですか。（あてはまるものすべてに○印）

「安否確認・声かけ」の割合が 68.1%と最も高く、次いで「安全な場所への避難誘導」の割合が 53.4%、「家族への連絡」の割合が 39.4%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が下がるほど「安否確認・声かけ」「家族への連絡」「情報提供」「相談・話し相手」の割合が高く、「協力（支援）は困難」の割合が低くなっています。また、18～39 歳で「安全な場所への避難誘導」の割合が高くなっています。

単位：％

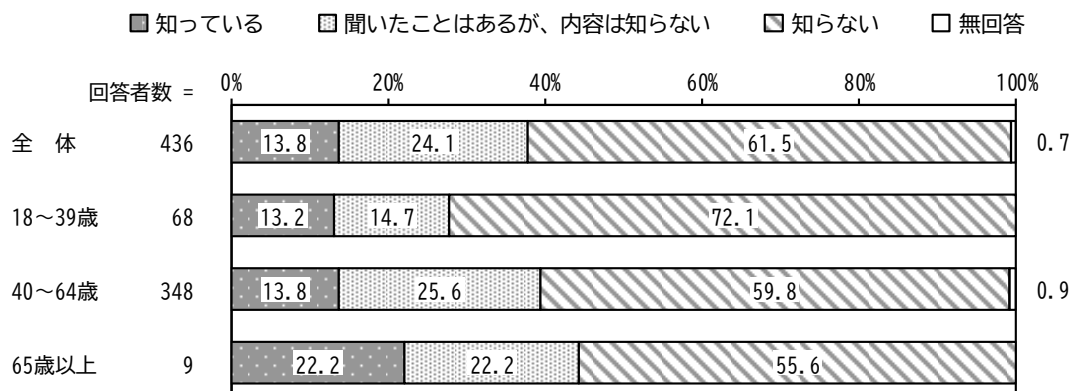
区分	回答者数（件）	安否確認・声かけ	家族への連絡	安全な場所への避難誘導	応急手当	情報提供	相談・話し相手	協力（支援）は困難	わからない	その他	無回答
全 体	436	68.1	39.4	53.4	18.3	38.3	28.0	2.5	11.9	0.5	0.9
18～39歳	68	75.0	51.5	64.7	25.0	48.5	32.4	1.5	8.8	0.0	0.0
40～64歳	348	67.0	37.4	51.4	17.2	37.1	26.7	2.6	11.8	0.6	1.1
65歳以上	9	66.7	33.3	66.7	22.2	22.2	22.2	11.1	22.2	0.0	0.0

問 19 令和 3 年に障害者差別解消法が改正され、令和 6 年から事業者等による障害のある方への「合理的配慮の提供」が義務化されました。「合理的配慮の提供」とは、障害のある方から社会の中にある障壁を取り除くための何らかの配慮を求める意思表示があったときに、負担が重すぎない範囲で対応することです。あなたは、合理的配慮の提供について知っていますか。（○印は 1 つ）

「知っている」の割合が 13.8%、「聞いたことはあるが、内容は知らない」の割合が 24.1%、「知らない」の割合が 61.5%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っている」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。

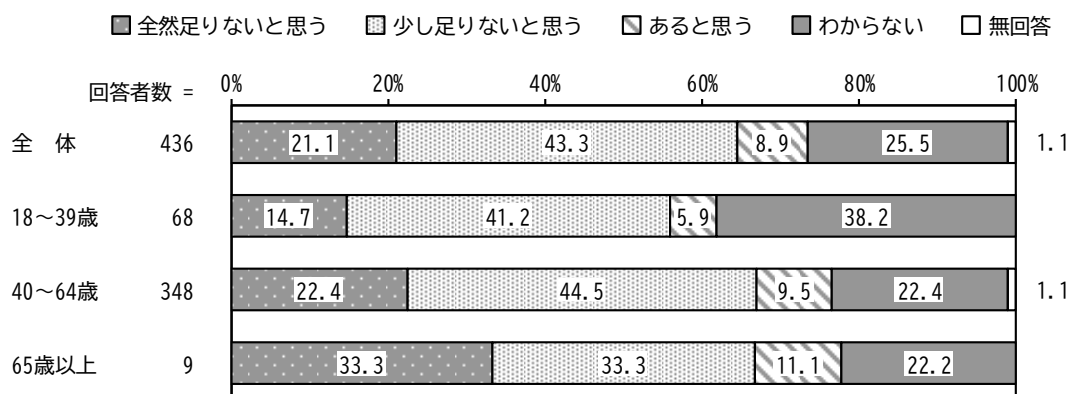


問 20 あなたは、社会には障害のある方への対応や理解が十分にあると感じますか。(○印は1つ)

「全然足りないと思う」の割合が 21.1%、「少し足りないと思う」の割合が 43.3%、「あると思う」の割合が 8.9%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「全然足りないと思う」「あると思う」の割合が高くなっています。



問 20 で「全然足りないと思う」「少し足りないと思う」を選んだ方におたずねします。

問 20－1 それはどんな場合ですか。(あてはまるものすべてに○印)

「仕事や収入」の割合が 68.0%と最も高く、次いで「交通機関や建築物の配慮」の割合が 57.3%、「街なかでの人の視線」の割合が 41.6%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「教育の機会」「地域の行事や集まり」「医者にかかりにくいこと」「交通機関や建築物の配慮」の割合が高く、「街なかでの人の視線」「行政の対応」の割合が低くなっています。また、18～39 歳で「店員の対応や態度」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	教育の機会	仕事や収入	近所づきあい	地域の行事や集まり	店員の対応や態度	医者にかかりにくいこと	交通機関や建築物の配慮	街なかでの人の視線	行政の対応	その他	無回答
全 体	281	37.7	68.0	22.1	15.3	25.3	11.0	57.3	41.6	18.5	2.5	1.1
18～39歳	38	34.2	68.4	23.7	10.5	36.8	10.5	55.3	55.3	21.1	2.6	0.0
40～64歳	233	37.3	68.2	21.0	15.9	23.2	10.7	56.7	39.9	18.0	2.6	1.3
65歳以上	6	50.0	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	16.7	0.0	0.0

東久留米市の障害福祉施策について

問 21 障害福祉に関する情報は、主にどこから得ていますか。(○印は3つまで)

「市や社会福祉協議会等の広報紙」の割合が 25.5%と最も高く、次いで「今は必要がないので、得ていない」の割合が 25.0%、「テレビやラジオ」の割合が 19.3%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「市や社会福祉協議会等の広報紙」「声の広報」「テレビやラジオ」「新聞・雑誌」「市や都の窓口」の割合が高く、「今は必要がないので、得ていない」「情報は得られていない」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	今は必要がない ので、得ていない	市や社会福祉協議 会等の広報紙	声の広報	テレビやラジオ	新聞・雑誌	インターネット、 SNS	障害者団体	民生委員・児童委 員、身体・知的障害 者相談員
全 体	436	25.0	25.5	1.4	19.3	13.1	18.8	0.9	0.9
18～39歳	68	29.4	10.3	0.0	10.3	1.5	16.2	1.5	0.0
40～64歳	348	25.0	28.2	1.4	20.7	14.9	19.5	0.6	1.1
65歳以上	9	0.0	33.3	11.1	22.2	33.3	11.1	11.1	0.0

区分	ホームヘルパー	家族・親戚	友人・知人	医療機関	市や都の窓口	障害者の福祉施設	情報は得られて いない	その他	無回答
全 体	0.2	6.4	7.3	4.6	2.8	3.7	15.1	2.3	3.4
18～39歳	0.0	8.8	8.8	2.9	1.5	4.4	27.9	1.5	0.0
40～64歳	0.3	5.7	7.2	5.2	2.3	2.9	12.9	2.0	4.0
65歳以上	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	33.3	11.1	0.0	0.0

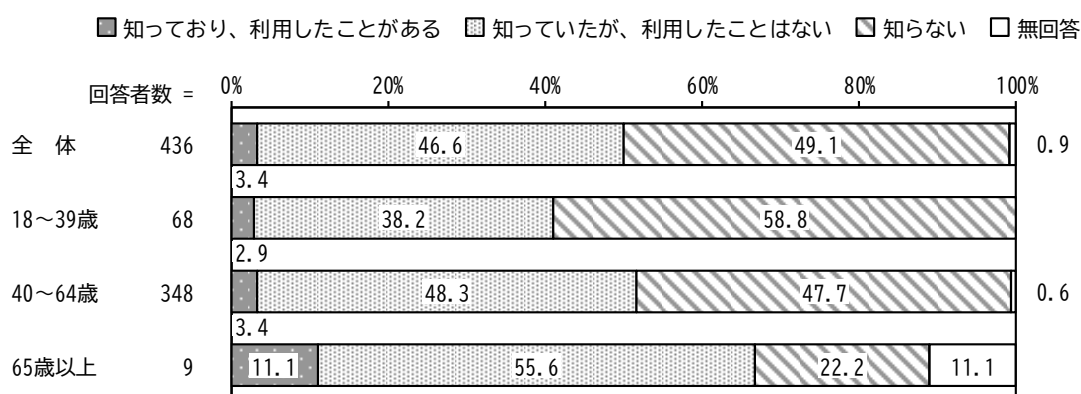
問 22 次の障害者（児）に関する市の相談窓口を知っていますか。また、それらを利用したことはありますか。（①～⑩までそれぞれに○印は1つ）

『④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）』で「知っており、利用したことがある」が、『①さいわい福祉センター』で「知っていたが、利用したことはない」が、『⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等』で「知らない」が高くなっています。

①さいわい福祉センター

【年齢別】

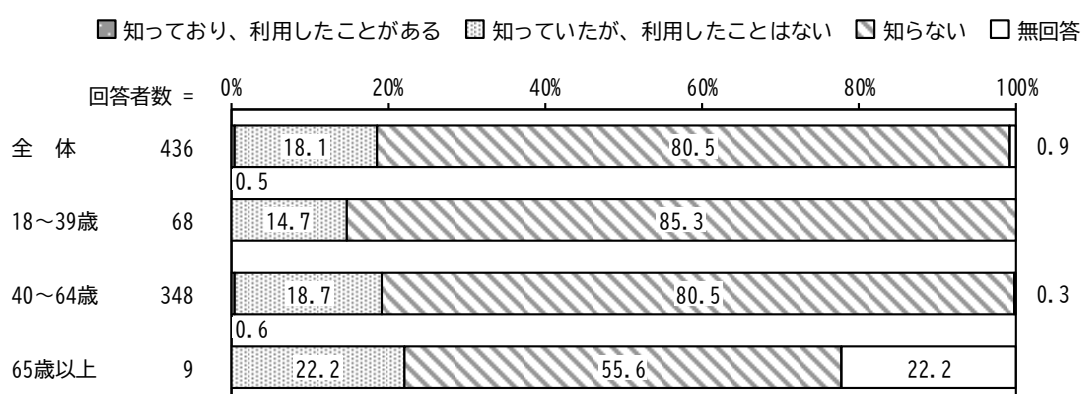
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っており、利用したことがある」「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



②地域生活支援センターめくるくまーる

【年齢別】

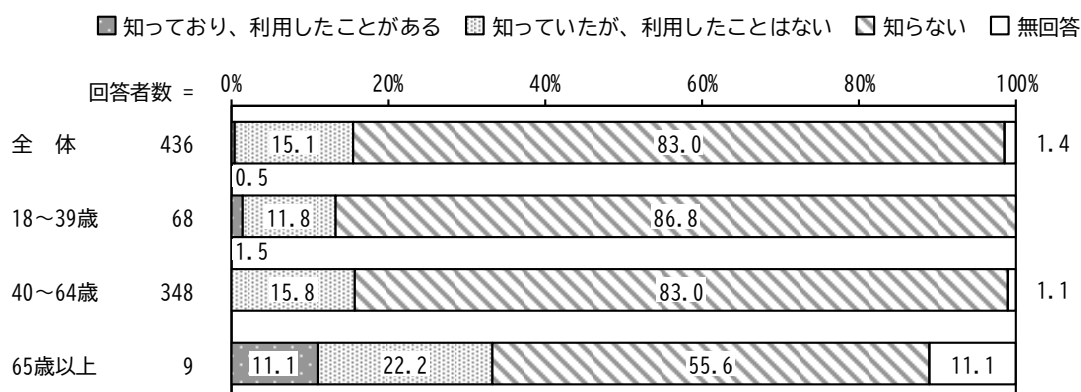
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



③障害者就労支援室「さいわい」「あおぞら」

【年齢別】

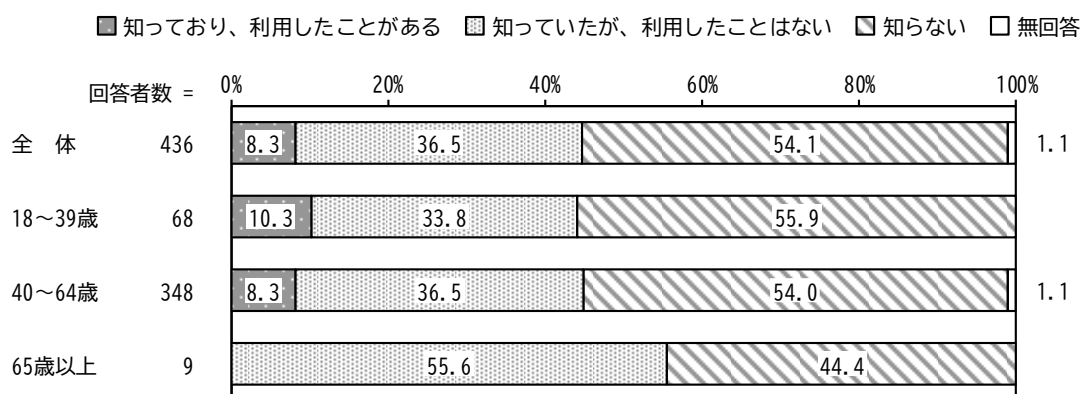
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



④市役所内ワークコーナー（ハローワーク窓口）

【年齢別】

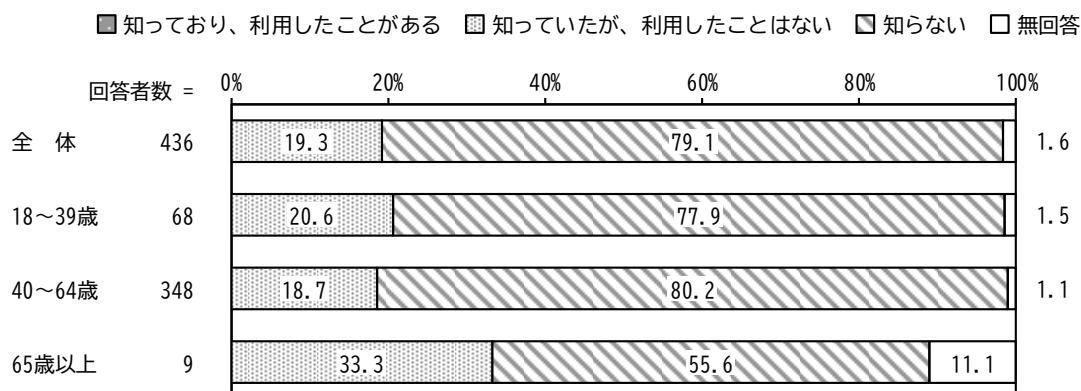
年齢別にみると、年齢が下がるほど「知っており、利用したことがある」「知らない」の割合が高く、「知っていたが、利用したことはない」の割合が低くなっています。



⑤障害者虐待防止センター（市障害福祉課）

【年齢別】

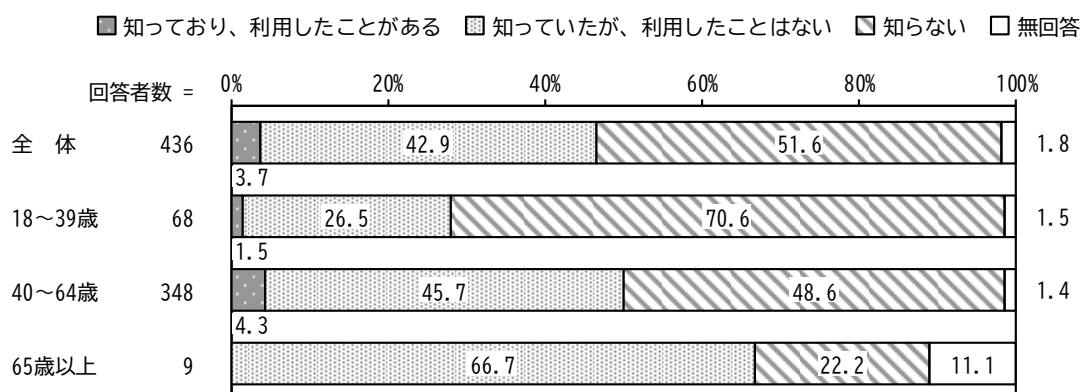
年齢別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。



⑥社会福祉協議会

【年齢別】

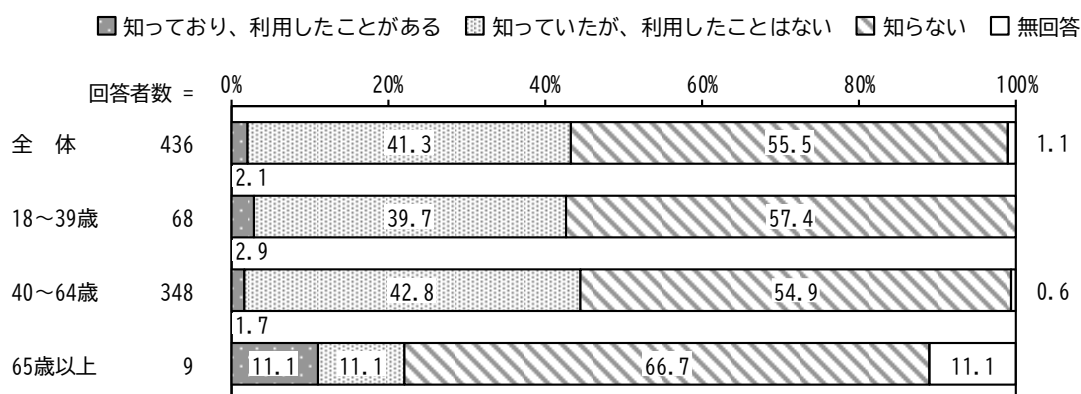
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



⑦児童発達支援センターわかさ学園（児童）

【年齢別】

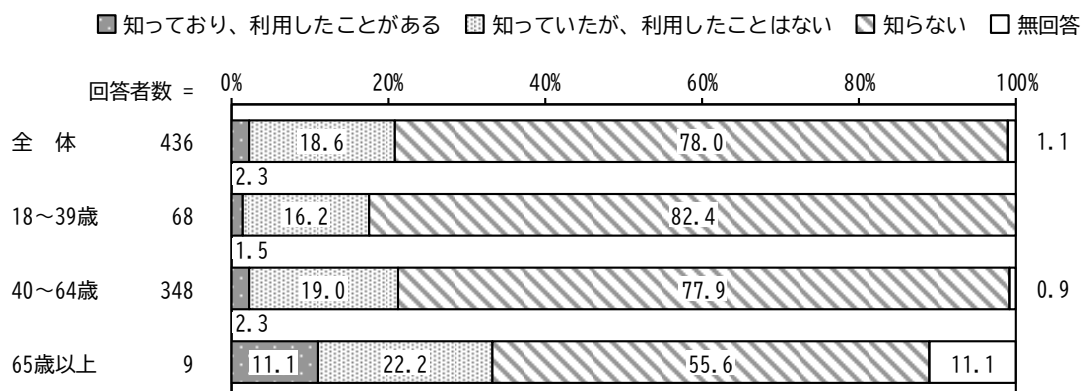
年齢別にみると、10件以上の項目で大きな差はみられません。



⑧教育センター（児童）

【年齢別】

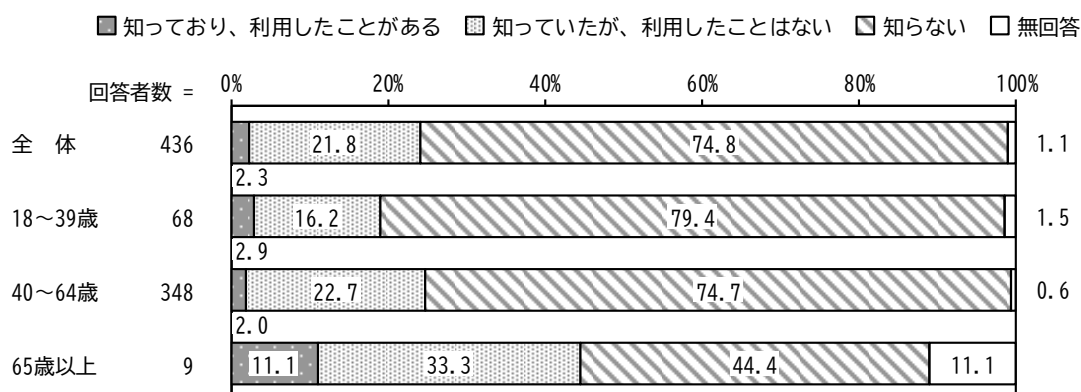
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っており、利用したことがある」「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



⑨滝山教育相談室（児童）

【年齢別】

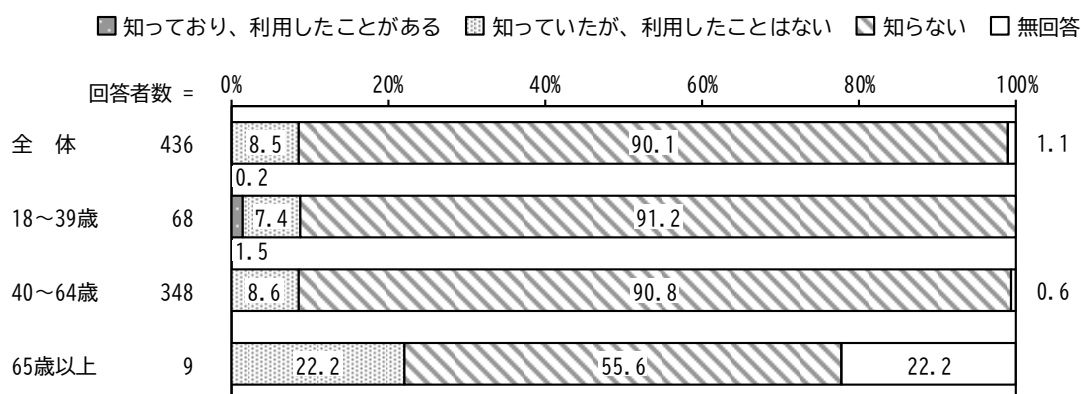
年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



⑩当事者団体等によるピアカウンセリング等

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「知っていたが、利用したことはない」の割合が高く、「知らない」の割合が低くなっています。



問 23 今後、市行政で重点的に取り組むべきと思う障害福祉施策は何ですか。(○印は3つまで)

「障害者の就労支援の充実」の割合が 33.7%と最も高く、次いで「児童の発達相談を切れ目なく受けられる体制づくり」の割合が 30.5%、「バリアフリーのまちづくり」の割合が 28.0%となっています。

【年齢別】

年齢別にみると、年齢が上がるほど「成人期の余暇活動の場づくり」「障害者の就労支援の充実」「重度の障害者(児)の日中活動の充実と場所の確保」「グループホームの施設整備」「相談支援体制の強化」の割合が高く、「障害者(児)への虐待の予防・権利擁護」「障害児保育の充実等による親の就労支援」「障害特性に応じた情報提供」の割合が低くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	児童の発達相談を切れ目なく受けられる体制づくり	特別支援教育の充実	教育と福祉の連携を強めること	障害児の放課後や余暇活動の充実	成人期の余暇活動の場づくり	障害者(児)への虐待の予防・権利擁護	障害者の就労支援の充実	障害児保育の充実等による親の就労支援	就労系事業所の定員の拡大	重度の障害者(児)の日中活動の充実と場所の確保
全 体	436	30.5	16.5	19.5	7.1	6.2	12.2	33.7	12.2	7.3	9.2
18～39歳	68	35.3	16.2	19.1	8.8	5.9	13.2	23.5	17.6	10.3	5.9
40～64歳	348	28.4	16.1	19.3	7.2	6.0	12.1	35.9	11.5	6.9	8.9
65歳以上	9	77.8	44.4	22.2	0.0	11.1	0.0	44.4	0.0	11.1	22.2

区分	在宅でも医療を受けられる体制づくり	グループホームの施設整備	バリアフリーのまちづくり	障害特性に応じた情報提供	相談支援体制の強化	障害者(児)への理解を深めるための講習やイベント	障害者(児)への研修等による支援者やボランティアの育成	災害時の支援	その他	無回答
全 体	11.9	13.8	28.0	6.9	9.4	5.3	6.2	12.6	1.1	5.7
18～39歳	7.4	10.3	22.1	11.8	5.9	5.9	2.9	10.3	0.0	11.8
40～64歳	12.9	14.4	29.3	6.3	10.1	5.5	7.2	13.2	1.1	4.9
65歳以上	0.0	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

東久留米市の障害福祉施策について、ご意見やご要望などがありましたら、自由にご記入ください。

全体で 47 件の意見がありました。

No	内容	件数
1	市政全般	17 件
2	心のバリアフリー・インクルーシブ教育	7 件
3	障害の多様化に応じた相談支援体制の充実	5 件
4	公共施設等バリアフリー化の促進	3 件
5	就労支援の充実と地域での仕事の開拓	3 件
6	特別支援教育の充実	2 件
7	情報アクセシビリティの向上	2 件
8	経済的支援の実施	2 件
9	アンケートについて	2 件
10	生涯学習活動への支援と余暇活動の充実	1 件
11	地域ぐるみの協力体制の構築	1 件
12	医療・健康づくり	1 件
13	その他	1 件

市政全般

親の会活動が行政に働きかけ、整ってきた事が沢山あります。是非、現場の声に対応する市であり続けて欲しいです
この世の中の全ての人が平等で暮らせるようにして欲しい。小さい市からで良いと思うので、その輪が広がっていくと良いと思います
障害福祉施策に限らず、どんな施策にも言えることですが、市にお金がないと全ての施策は理想にとどまってしまう。まずは市民が暮らしやすい町づくりを目指し、人口を増やしたり、ふるさと納税を充実させる等ことで収入源を増やす施策を考えてほしいです。また、東久留米市が障害・福祉に積極的であるイメージがありません。例えば東久留米市（民）専用のアプリを作成する等して、市民に対する情報の強化を要請します、そうすれば1つのアプリにあらゆる情報が集約して、意見も活発になるのではないのでしょうか。
すでに独立しておりますが、幼い頃はさいわい、わかかさその他東久留米にあるありとあらゆる支援に助けられ、母や父との時間を私はすごすことができました。本人だけでなく姉である私は大変助けられておりました。育ててもらいました。支援やサービスに不満はなく、大人になれています。幸せに育ったと思います。私本人が直接お世話になることはなさそうですが私には税金を払う意味が実感できています。ありがとうございました。より良く、なるといいなと思います
今後もよろしくお願いします
福祉施策にも限界があることを理解してもらわないと、お金がいくらあっても足りなくなる
がんばってください
わかかさ学園で働いている母親がおります。話を聞く限り、福祉従事者の待遇や給与制度の構造に問題があると感じております

障害福祉ももちろん大切だとは思いますが、東久留米市はもう少し高齢者向けサービスを増やした方が良いと思います。クルブーは有料、コミュニティバスも無い。無料の見守り配食なども無い為、これではお金を持っていないと東久留米では高齢者の生活は出来ません。元気なシニアがもっと活動しやすくしてほしいです。※障害を持っている方が近くに居ないと、大変さは全く理解できないと思います
いろいろなサービスが市にお金がない、という理由でどんどん縮小になっている。財政がきびしい中でも必要なサービスに制限されることは絶対さけるべき。障害のある本人にとっても家族にとっても東久留米市に住むことを拒否されるように感じる
予算を確保し、福祉政策の充実に努めて下さい
今のところ福祉サービスを利用していないので、市内の現状はわかりませんが、たとえ社会参加が困難な状態になったとしても、基本的な日常生活だけは今の住み慣れた地域で維持できていると思っています。行政に対しての要望としては、あまり価値観の多様性や外部の評価に振り回されず、東久留米に必要なサービスが必要な住民にだけ適切に提供していけるようしっかり見極めていただければ、と思います。ご苦労様です
福祉に積極的に取り組む「市」として、実態とともに認知されるようになるとうよいと思っています。とはいえ、個人個人ができることは限られます。少なくとも、常に意識を向けることを心がけていきたいと思います。ひとりひとりの意識を高めていくことが大切です
障害のある人（大人）の母親から「自分の息子とあなた（私のこと）は同じ年ぐらい。自分は死ぬまで息子を助けてくらしている。自分が死ぬと息子はどう生活していくか不安で仕方ない」と言われました。そのような不安をなくしていけるように区役所や市役所ががんばって欲しい。個々の家庭では限度あるのではないかな。経済にゆとりある家ばかりではないのではないかな
東久留米市役所の障害福祉課は、人手不足です。人員を増やしていただくよう、早急に、ご対応いただきたい。自立支援医療の手続きに時間がかかりすぎると思います。これは、都の問題もあるかと思っています。障害のある方にご負担がかからないよう迅速なご対応を切に、希望いたします。心を病む方が増加する一方です。支える側が心を病んでしまったら、本末転倒です。よろしくお願いいたします
市役所障害者窓口に立っても、大きな声で何度か声をかけるまで対応に来てくれなかった。後から来た方にも同じだった。忙しいかもわからないが冷たく感じた
家族や知人、自分も病気で障害者になります。その時の為に福祉や市行政の援助や介護など分かりやすい障害福祉政策など自分も勉強しておく必要があると思いました

心のバリアフリー・インクルーシブ教育

障害を持った方達に、手をさしのべるのが普通になる様に、子供達にもきちんと教えるような授業があると良いし、具体的に障害者施設を訪ねたりする体験授業もあると良いかもしれないと思います。すでに実現されていたら、すみません
私は手話サークル、カルチャースクール、通信教育を以前（市外）しておりました。聾者と交流することをしていましたが（市外）、仕事が忙しく20年程、会社と家の往復の毎日で、東久留米市在住ながら、全く土地勘がありません。買物も市内ではしません。手話を習っている時、先生はおっしゃいました「バリアフリー、バリアフリーという事自体が差別している」と。障害者と健常者がお互い平等というのであれば、特別扱いせず、困ったときはお互い様で、手をさしのべるのが平等だと思います。当たり前の事だと思いますが、違いますでしょうか？
街で困まっている障害者がいたら手助けをしたいと思っているが、声を掛けられてパニックになってしまう障害者（特に子ども）もいると思うので容易に声かけができない。親や学校から「知らない人に声をかけら

れたら不審者と思え」と教えられているので、今の世の中ではそういう流れになっているので遠慮してしまいます
障害者と健常者を分けることなく1つの社会が構成できることが理想だと思う。児童の教育の場においても、交流できる時間があり、理解を深めることが自然な助け合いを生むことにつながると思う。市はボランティア活動や交流会のアナウンスを行うことや、健常者にできること、気づけていない自分の周りの社会に目を向けるためのヒントやきっかけを与えてくれるといいと思う。健常者も自分の生活のことでいっぱいになっている。でも、つながり合うことで、個人ではなく同じ東久留米に住む仲間になれるかもしれない
レベルの高い先生と、そうでもない（かんじの）先生と差が大きいように感じます。株式会社、植草葉月の先生を東久留米市でお招きして研修することで、市内全域の底上げになるのでは、と。「障害児教育部門等」のAmazon書籍ランキング1位の方です。学校内のあらゆる争いごとが激減するはずです。先生と先生が支え合い、先生と保護者が支え合い、そして全ての大人達が子供達の伴走者として支えるシステムを構築することができます。傷つく子供を0にするために、先生を東久留米市に、呼んでください(保護者にも受講できるようにしてください)。東久留米市が少しピースフルになると思います
知人など、少しでも身近に居れば、理解が進むけれど、現状、全く周りに居なかったのも、興味、関心が低いです。興味関心がなくても、情報が入ってくると少しは理解が進むと思います。勝手な意見ですみません
「障害福祉施策」について何も存じ上げずお恥ずかしいです。ただ2歳になった孫の子育てで奮闘する娘を見ているとベビーカーでの移動も大変だと感じますので、車椅子の方々はより大変だと思います。まずは「知ること」からでしょうが、日々の生活に追われている現状です

障害の多様化に応じた相談支援体制の充実

”障害”ではなく”障がい”を使うのが一般的では？障がい者のいる家族への支援を厚くすべきと思います
施策として対処方法受け身が多いのではと思ってしまう。娘が発達障害かもと相談にいったことはあるが、ただカウンセリングをそちらからの積極的なかわりはなかった
（問23に関してです！）未就学児への発達相談や、支援に関することをもっと充実してほしいです。手続き等簡易的になると、少しでも迷っていたり悩んでいたたりする保母の方がやりやすいと思います。相談に来たら、必ず受けてほしいです。Webでの申し込みの際、項目が多すぎて途中でやめようとしていた方がいたので、お手伝いをしたので、簡易的だともっと相談までの過程でつまづかないと思いました（保育士をしていて、就学相談に関わる機会が多く、思っていたことを書いてみました）
児童 大人になった時親への相談支援
障害者の親御さん自身の困っていること、不安や悩み等を相談できるところがあればよいと思う

公共施設等バリアフリー化の促進

とにかくバリアフリー。歩道にあがる段差がありすぎる。自転車でもこわすぎる
身近に障害者がいないので本当に必要な市の施策については、よくわかりません。当事者やそのご家族の声を参考にするとよいのではないのでしょうか。街での車イス利用者の不便さはよくみかけるので（交通機関や医療機関）もう少し周りの人々が気をつかえる、配慮できるようになるとよいと思います。誰もがいつどこで障害者になるかわかりません。福祉は大事な施策だと思うので市の職員の皆様も大変だと思いますが、少しでもよりよい市民生活になるようよろしくお願いします
だれもが平等でくらしやすい、安心して住める市になることを願っております。東久留米市はとてもステキな所なので、いつか自分が高齢者になった時にも、住み続けられるよう、さらにステキな市に（バリアフリー面などでも）なっていったらいいです。こういった、市民の声をきいて下さるアンケートの機会をつくって下さり、感謝いたします。福祉部門は必要とする人が増えており、大変なお仕事だと思いますが、頑張ってください。今後の施策を楽しみにしております

就労支援の充実と地域での仕事の開拓

この度は、アンケートの機会を与えていただきましてありがとうございます。少しではありますが障害福祉施策について視野が広がり考えるきっかけとなりました。特に就労支援の充実とバリアフリー（道路及び歩道）と施設の整備を推進してゆくことを優先的に望みます
障害者の就労支援だけでなく、障害者を雇用する、あるいは雇用を考えている企業支援が重要。障害者の一般企業への就労の拡大の要は、企業支援である。埼玉県障害者雇用総合サポートセンター等の取組みを参考にしてください
現在障害を持った子と職を共にしております。高等学校を卒業してから2年が経ち成人を迎えどこまでの成長を期待をしたら良いのか迷う日々です。障害を持つ子の成長は共会わないのかその子その子によって違いがあるのか？一般人には未知の生活で受け入れる企業、職場人に理解、推進して行くことを望みます

特別支援教育の充実

保育園、幼稚園、小、中学校等教育機関で他の子どもと一緒に教育を受ける際、担任や施設への負担がとても大きいと感じる。障害を持つ子どもたちをサポートする人の人員確保をし、担任一人への負担を減らすべきだと思う。心身ともに疲れきってしまう前に適切な人員配置が急務と考える
保育現場における、加配保育士の増加や基準の見直しを、もっと徹底して欲しいと切に願います。ただでさえ、人手不足や給料が低いことで保育士から離れてしまう人が多いのも事実です。その中でこの時世、年々、発達障害児が増えていることも事実です。特に、3～5才児の担任となると子ども25人に対して保育者1人対任、又は、+1人クラス補助、でも、発達障害児と診断される前のグレーの子が25人の中に多くて7～8人いることもあります。ただ、グレーというところで止まってしまう為、加配がつけられません。特に多いのが、グレーと保育者が気付き保護者に伝えても保護者自身が認めない、あるいは相談できる所を紹介しても行かないといった目をそらす、家では困ってない、といったことがそれが故に保護現場の中で”グレー”というところで止まってしまう、医者でない私達には診断をつけられない、一番多く長い時間長い日々を一緒にすごしてきているのは私達、保育士なのに。だから、発達障害児ではないとグレー、手のかかる子で、通常基準の配置で保育をしないといけなくなってます。なので、グレーでも保護者が認める、認めないとかではなく、保育士が、クラスの補助を増やして欲しいといったら、すぐに増員できる体制をつくって欲しいです。あと、市の発達巡回の回数や保護者へのつなぎ方などもっと内容を充実させてほしいです

情報アクセシビリティの向上

すでに載せていたら申し訳ありませんが市報で施策の内容を読めるように(分かり易く)載せてほしいと思います(活動内容など)

家族が障害を負って初めて福祉制度について調べることになりましたが、制度や支援内容が分かりにくく、必要な情報にたどり着くのが大変でした。市の HP や案内資料を障害ごとに利用できる支援制度が分かるよう、より分かるよう整備してほしい。また高齢者はインターネット等で自ら情報を調べるのが難しい場合もあります。支援が必要になった際に、病院や医療機関から利用できる福祉サービスや相談窓口について案内を受けられる仕組みがあると助かります

経済的支援の実施

歳をとれば皆、障害が出てくる。うちの父親も、難聴、白内障、足が悪くなり、つえ。ほぼ障害者。いろいろと買ったり、病院へ行ったり大変でお金がいくらあっても足りない。税金、税金、物価高。ほちょう器すら新しい物など買えず、古い物を未だに使っている。障害者が安心して暮らせるなんて、お金だと思ってる。ヘルプマークも、道があるくとほぼほぼ、皆リュックに、付けてる人が多くて本当に必要？とうたがってしまう。ちゃんと病院や市で、基準をつけて交付した方がいいと思ってしまいます(色わけするとか)

東久留米には、補聴器の補助が無いと耳にしました。他の市や区と同等の補助があると良いですね

アンケートについて

このようなアンケートは初めてでした。今後の福祉施策にお役に立てることを望みます。何より、一番大変な思いをされているのは障害者・児本人と、その親、兄弟姉妹だと思います

障害のある方について改めて考える良い機会となりました。身近に障害のある方がいないため、これまで深く考える機会が多くありませんでしたが、今回のアンケートを通じて日常生活の中でどのような配慮や支援が必要なのかを考えるきっかけになりました。今後も理解を深めていきたいと思っています

生涯学習活動への支援と余暇活動の充実

研修等で1人でも多くの支援者やボランティアの方々が増えていく事を願っています

地域ぐるみの協力体制の構築

現在は仕事をしているため、時間に余裕がないが、余裕ができたらボランティア活動等にも参加したい。まずは地域での福祉の充実。障害者の家族の話に耳をかたむけて、いっそう充実した福祉になることを願っています

医療・健康づくり

1 杉並区では医療ニーズのある児童もケアしていましたが(在宅で)この東久留米にはないということですか？11番の体制に付いて21~18までの施策を検討することとても大事ですがまず障害者(児童をもつ町両親も)のneedsは一番何なのかを声として反映させた方がよろしいのでは？